平成27年4月
第24号

中央果実協会ニュースレター

巻頭言:

・果物の楽しみ方　p1

特集:

・平成26年度食料・農業・農村政策審議会第5回及び第6回果樹部会について　p2

果樹をめぐる動き:

・果樹用腕上げ作業補助器具の開発について　p3

中央果実協会からのお知らせ:

・第16回果樹技術・経営コンクールについて　p6

・ニュージーランド・オーストラリア現地調査について　p9

・平成26年度道県果実基金協会業務運営協議会開催される！！　p10

・(有)ピーチ専科ヤマシタの経営発展の軌跡と経験ー第4回果樹農業研究会における講話よりー　p10

・「アグリフードEXPO」大阪2015への出展　p11

業務日誌：　p12
人事異動：　p12
お知らせ：　p12

巻頭言

果物の楽しみ方

農林水産省生産振興審議官　鈴木　良典

今年1月に生産振興審議官に就任し、果樹関係の業務を担当することになりました。生産局(大昔の農蚕園芸局)には何度か在籍しており、果樹の仕事は3回目になります。1回目は平成15年、果樹経営安定対策の一回目の基準価格の改定や日墨FTA交渉、2回目は平成19年、野菜課と果樹花き課が園芸作物課になり、加工業務用果実の推進(栗の品種「ぽろたん」が出たばかりだったと記憶しています。)や毎日果物200ｸﾞﾗﾑ運動などに携わりました。ニュースレターの読者の中には「お～、あいつか。」とおっしゃる方がおられるかもしれません。よろしくお願いします。

これまで、いろいろな農産物の生産関係を担当してきましたが、産地や品種にまつわる知識が増えると、買うときにこうした情報を活用して(生産部門を担当すると国産中心の選択になるのですが。)、結構、おいしいものを選ぶ確率があがります。果物も例外ではないのですが、他の品目に比べるとあまり成績が芳しくない実感があります。その分、おいしい果物に当たったときのうれしさは他の追随をゆるしません。

ところが、最近、少し違った果物の楽しみができました。家の近くに直売所があって、時々、覗きにいくのですが、様々な果物が並んでいます。季節により種類が変わるのは当然ですが、生産された方の名前が張ってあり、こんなに多くの農家さんがいるのかと驚き、さらには外見も様々。どんな人だろう、どんな味かなと想像しつつ選びます。食べてみて想像と違ったときの驚きが楽しくて次の機会には違う農家さんのものを選びます。果物の味としては当たり外れがありますが(近くの直売所の名誉のため、当たりの方が多いことを宣言します。)、頭で食べる楽しみはひと味違った楽しみです。

それから、前職の関係で福島県を訪れる機会が多く、仕事だけでなく、休みの日にドライブに行ったり、農作業のお手伝い(ご迷惑をおかけしました。)に行ったりもしました。そうしているうちに、産地に行くと選果場や直売所で規格外品を安く売っていることに気がつきました。これまた、当然ながら見栄えが悪く、日持ちはしません。でも、安くておいしいのです(目利きがいりますが。)。自家用車で行くと何箱も買って、「当たり外れはあります。早く食べてください」といいつつ近所にお裾分けします。

農家さんで、春は摘花、夏は収穫、袋外し、シート張り(これはきつい作業でした。)、選果場で段ボール組み立て、果物の箱詰めのお手伝いをしましたが、それ以降、どんな果物を食べても作業が大変だったことを思い出し、果物のおいしさが一段とあがったような･･･。これは心で食べる楽しみではないかなと思っています。

さらに思い返してみると、まだ小さい頃、実家の裏にイチジクの木が。大きな木だったような、町中だったのですが、1本だけありました。父が登って穫って家族で食べました。おいしかった記憶しかありません。イチジクは買って食べる果物ではなく、裏に成っているものを食べるものだとばかり思っていました(イチジク生産者の皆様申し訳ありません。)。残念ながら、今の住まいには果樹を植える余地はなく、心で食べる究極の楽しみは味わえそうにありません。

ここまで書いてきたら果物が食べたくなりました。これを読まれた方も、果物の魅力を語っていただくようをお願いして、就任のあいさつとします。早く帰って果物食べよう。

特 集

平成26年度食料・農業・農村政策審議会 第5回及び第6回果樹部会について

農林水産省生産局農産部園芸作物課　早瀬 健彦

果樹関係団体の皆様、都道府県・市町村等行政機関の果樹担当の皆様におかれましては、日頃から、国の果樹施策の推進に御理解、御協力いただき感謝申し上げます。

前稿（23号）で、平成26年度食料・農業・農村政策審議会第4回果樹部会(2月15日)について御紹介しました。

本稿では、第5回果樹部会（2月5日）及び第6回果樹部会（3月18日）の概要を御紹介します。

第5回では、「果樹農業振興基本方針（骨子）（以下、「骨子」という。）について」の審議が行われました。事務局から、骨子（案）について、説明を行った後、各委員から意見をいただきました。

委員からの全体的な意見として、①果樹農業の振興が基本方針のベースであることをおさえた上で、消費対策や生産基盤整備についても、そのメッセージを考える必要がある、②行政が先頭に立って構想を打ち出し、生産・製造・流通のプレイヤーが得意分野を持ち寄って、新たなサプライチェーンを構築する必要がある等の意見が出されました。

消費関係では、①果実を嗜好品から必需品に転換することについては、給食や職場への導入等の手法論だけでなく、より訴えるものがあるとよい、②消費者に対して果樹農業の良さや果実を食べる習慣・文化の重要性を喚起するためにも、消費者の文化を守るという連携も考えていく必要がある等の意見が出されました。

生産関係では、①一つの果実だけでは生産・販売の時期が限られたビジネスモデルにならざるを得ないが、複数の種類の果実を連携させることで、一年を通じたビジネスモデルにできるのではないか、②農地中間管理機構は土地利用型を想定した制度であるため、果樹の特性を踏まえ運用面で柔軟な対応が必要との意見のほか、セーフティネット、ブランド化、6次産業化、鳥獣害対策等に関する意見が出されました。

流通・加工関係では、複数のサプライヤーがどのように連携するか考えることで新たなサプライチェーンが生まれる等の意見が出されました。

輸出関係では、品質保持、保存資材、コールドチェーンの確立等の果実の価値を下げない取組が重要である等の意見が出されました。

第6回では、「果樹農業振興基本方針（以下「基本方針」という。）について」の審議が行われました。事務局から、基本方針（案）について、説明を行った後、各委員から意見をいただきました。

委員からの意見として、「果樹農業をめぐる状況と基本的考え方」では、産地から各段階の関係者が連携して、価値を運び生み出すバリューチェーンを構築し、それぞれの役割を発揮する必要といった意見が出されました。

「消費面での対策の推進」では、①果実などの青果物を食べることを基本として、足りない場合にサプリメントで摂取するという考えが重要、②消費の拡大に向けて、医師や有識者の方からのメッセージを出すことで、果実の必要性を訴えるような取組が必要等の意見が出されました。

「生産面での対策の推進」では、①果樹経営キャリアプランは、若い方の希望となることから、良いものを今後策定されるよう期待する、②園地の規模拡大や生産基盤整備、再編整備は新たな基本方針にも盛り込んであるが、今後はこの方針の下、推進の引き金となるような施策を進めてほしい等の意見が出されました。

「輸出面での対策の推進」では、①国によって残留農薬基準やガイドラインが異なるため、そういった情報の確認も重要、②海外での青森産りんごとしてのブランド力が浸透しつつあり、他の産地が後に続くよう、産地としても輸出拡大を更に進めていく等の意見が出されました。

「果実の流通及び加工の合理化に関する基本的な事項」では、①今後、市場流通をどのようにしていくか考えていくことが必要、②卸売市場では、消費者の需要に応えられるように集荷や分荷の調整機能があり、いかにしてその機能を発揮していくか考えることが必要といった意見が出されました。

また、総論として、①20年、30年

先を考えた時に、果樹は消費とうまく結びつけば、日本を代表する農業部門になる、②国の基本方針と産地の考えが乖離しないようにすることが重要、③今後所得を向上していくためには、野菜・果樹の栽培が重要であり、自信を持って世の中にアピールしてほしいといった意見が出ました。

次号は、3月27日に開催された第7回果樹部会と新たな果樹農業振興基本方針について、御紹介したいと思います。

これまでの果樹部会の審議内容については、農林水産省のホームページに掲載されておりますので、議事録や配付資料を御関心をもって御覧いただけますと幸いです。

http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/kazyu/index.html
（食料・農業・農村政策審議会果樹部会委員・臨時委員名簿は前々号（20号）3頁参照）

果樹をめぐる動き

果樹用腕上げ作業補助器具の開発について

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
生物系特定産業技術研究支援センター
園芸工学研究部　主任研究員　大西　正洋

はじめに

わが国の果樹栽培においては、整枝剪定や着果管理、収穫など多くの作業が機械化されておらず、手作業による長時間労働を要しています。ブドウ栽培では、花穂整形、ジベレリン処理、摘粒、袋掛け等、数多くの樹体管理が行われています。わが国のブドウ栽培は一般的に棚仕立て栽培であり、着果位置が作業者の頭上付近となるため、これらの管理作業は腕を上げたつらい作業です。また、これらの管理作業は作業適期が短いため、作業に追われることも多く、一日中腕を上げた作業が何日も続くことになります。

一方、近年、作業者の労働負担を軽減する目的でアシストスーツと呼ばれる装着型の装置の開発が盛んに行われていて、農業分野でも研究開発が進められています。

農研機構生研センターでは株式会社ニッカリと共同で、腕上げ姿勢を補助して作業を楽にする装着型の補助器具の開発に取り組んできましたので、開発機の概要と使用効果について紹介します。

1. 腕上げ作業補助器具の概要

1）腕上げ作業補助器具の構造

開発した腕上げ作業補助器具は、作業者の腰に装着する作業ベルト、腕を載せるための腕受け部、および、それらを接続する連結機構から構成される非常に簡易な構造です（図1、図2）。モーター等の動力やバネ等の弾性部材を用いておらず、動力なしで使用することができます。質量は約 1.5kg であり、作業者の体格に合わせて作業ベルトから連結機構までの長さ、連結機構から腕受け部までの長さ、作業ベルトの長さを調整して装着できます。

連結機構は腕受け部が左右方向にも上下方向にも自在に動くような構造となっています。連結機構の作業ベルト側には溝部材が、また、腕受け部側には爪部材が備えられており、作業者が肘を体の内側に寄せることで溝と爪が噛み合い、上げた腕の重さを腰で支えることができます。

溝部材は腕受け部の回転中心から放射状に広がった複数の溝があるため、任意の高さで腕を支えることができます。また、爪部材は上側が斜め、下側が水平の三角柱型をしているため、肘を内側に寄せて溝と爪が噛み合った状態でもラチェットのように上方向には動かすことが可能です。

図1　腕上げ作業補助器具を用いた摘粒作業

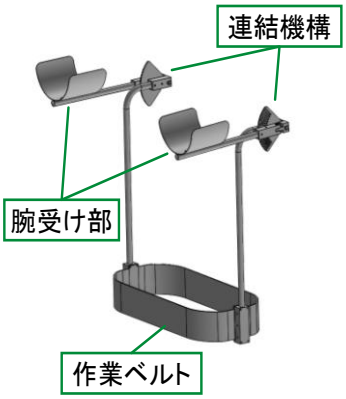


図2　腕上げ作業補助器の構造

2）腕上げ作業補助器具の使用方法

腕上げ作業補助器具の装着方法は、腰に作業ベルトを締め、腕受け部のバンドを面ファスナーを介して腕に巻くだけであり、慣れれば一人でも 30 秒程度で装着することができます（図3）。作業者は任意の高さに腕を上げてから肘を内側に寄せるか、もしくは、肘を内側に寄せた状態で任意の高さまで腕を上げると、腕受け部が下方向に動かなくなるため腕の重さを作業ベルト、つまり腰部で支持します。腕を支えている状態では、椅子の肘掛けに腕を載せているような感覚で作業を行うことができます。肘を外側に開くことで溝と爪が外れ、腕を自由に上げ下げすることができます（図4）。

2．腕上げ作業補助器具の使用効果

1）作業能率

開発した補助器具は腕の支持状態と自由に動かせる状態の切り替えが容易であるため、装着しても腕の動作に支障なく従来同様の作業ができます。花穂整形と袋掛けの作業能率は慣行作業、補助器具装着作業ともに20s/房程度であり、有意な差は見られませんでした。また、花穂を溶液に浸漬するジベレリン処理ではそれぞれ 6s/房と比較的早くできる作業であり、小さい果粒や不良果粒をハサミで除去す

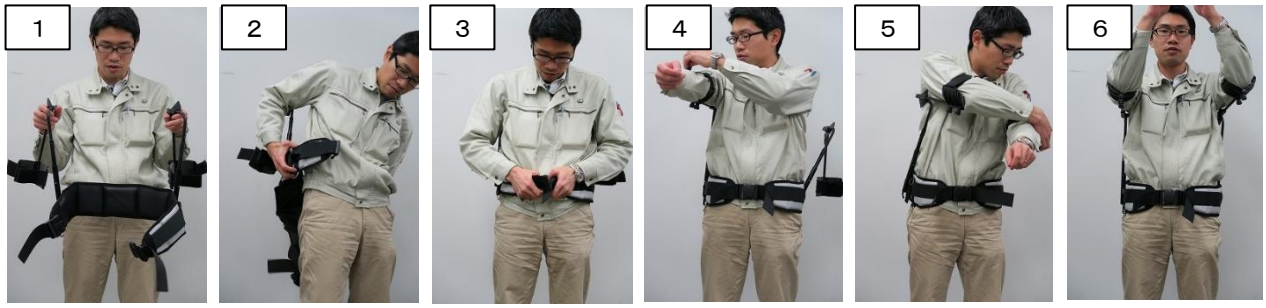


図３　腕上げ作業補助器具の装着方法

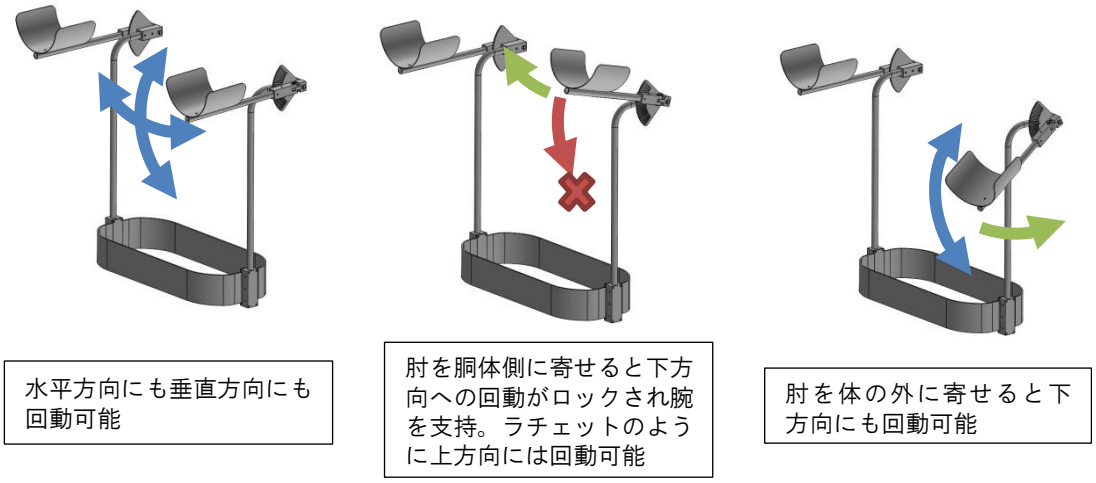
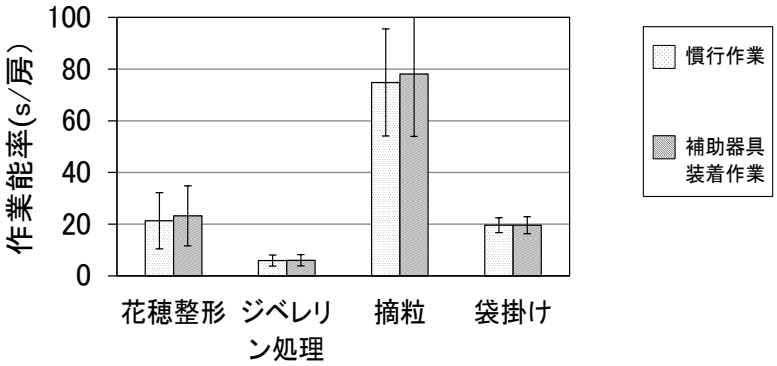


図4　腕上げ作業補助器具の動作



注）各作業 6～9 名（20 歳代～50 歳代、男性・女性）の平均値。
エラーバーは標準偏差を示す。

図5　補助器具装着の有無による作業能率の比較

る摘粒ではそれぞれ 80s/房程度と比較的時間のかかる作業ですが、どちらも慣行作業と補助器具装着作業の間に有意な差は見られませんでした(図5)。

2)労働負担軽減効果聞き取り調査

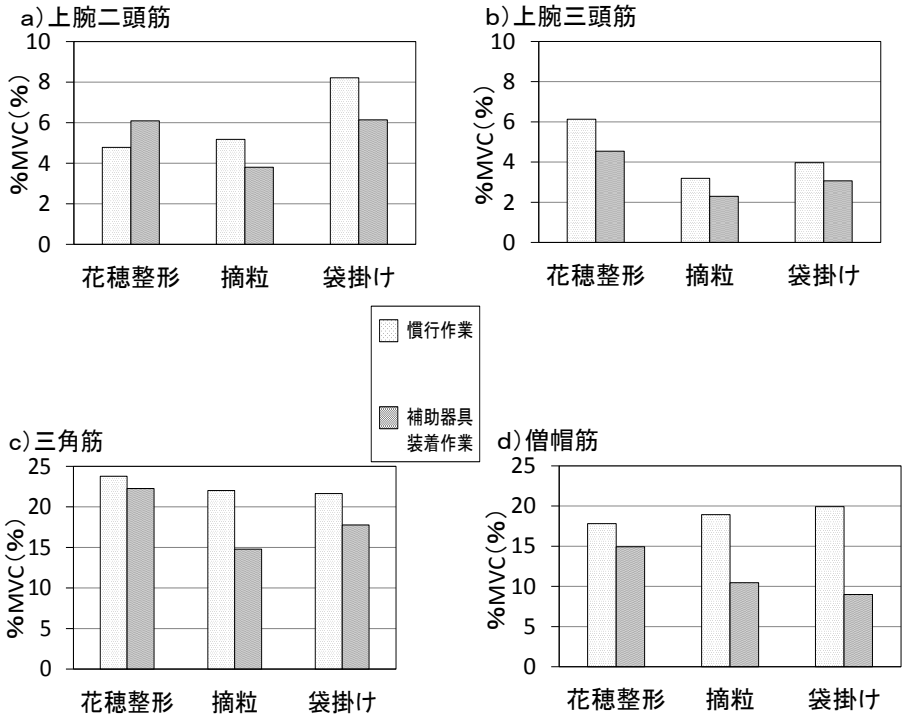
作業者への聞き取り調査では、花穂整形、ジベレリン処理、摘粒、袋掛けの作業で補助器具を使用することで「楽になった」との回答が得られ、特に、ブドウの栽培管理作業の中でも作業能率が最も低く労働負担軽減の要望の高い摘粒作業について、約9割の作業者から「楽になった」との回答を得ました(表1)。摘粒作業は同じ高さに腕を上げている時間が長いため、腕上げ作業補助器具によって腕を支持することによる高い効果が発揮されたと考えられます。また、袋掛け作業は慣行作業では袋束を腰の位置につけて、そこから袋を取り出し、頭上の高さの果実に袋をかける作業を繰り返しますが、腕上げ作業補助器具を用いると、腕を支えられた状態で作業することができるため、腕の高さに袋束を装着して、腕を上げた状態のままで袋を取り出し、果実に袋をかける作業ができ、約6割の作業者から「楽になった」との回答を得ました。

一方、花穂整形作業のように果粒がある程度重くなり果房が下を向くまでの時期や、房の高さのバラツキが大きい場合など、作業時の腕の高さが頻繁に上下する場合に補助器具を装着すると作業が煩わしくなることがあり、「つらくなった」との回答も一部でありました。

表1 労働負担軽減効果の聞き取り調査結果

	大変楽になった	楽になった	変わらない	つらくなった	大変つらくなった
花穂整形	1	1	2	1	0
ジベレリン処理	0	3	1	2	0
摘粒	1	6	0	1	0
袋掛け	0	5	1	2	0

注)各作業5～8名(20歳代～50歳代、男性・女性)の評価結果



注)%MVCは最大随意収縮時筋電位(最も力を入れた状態)に対する作業中筋電位の比

図6 補助器具装着の有無による筋活動量の比較

3)筋活動量

ブドウ棚栽培ほ場で行った試験では、花穂整形、摘粒、袋掛けの作業で補助器具を装着することにより、腕(上腕二頭筋、上腕三頭筋)、肩(三角筋)、首(僧帽筋)の作業中筋活動量が、補助器具を装着しない慣行作業と比較して概ね低くなりました。特に、摘粒作業における肩と首の筋肉、袋掛け作業における首の筋肉の低減効果が大きいことがわかりました(図6)。

おわりに

腕上げ作業補助器具を開発し、ブドウ栽培ほ場における現地試験によって開発機の性能を明らかにしました。動力なしで使える非常に簡易な機構の補助器具であり、果樹栽培の労働負担軽減に貢献できると期待されます。上げた腕を支持する補助器具であるため、棚栽培のブドウのように果実の高さや着果状態の方向が比較的揃っている樹種での利用効果が高いと考えていますが、他の樹種でも利用可能性は大いにあると期待しています。

中央果実協会からのお知らせ

第 16回果樹技術・経営コンクールについて

去る 2 月 20 日に五反田「ゆうぽうと」において、第 16 回全国果樹技樹・経営コンクール表彰式が、農林水産省大臣官房の鈴木生産振興審議官のご臨席のもと、盛大に開催されました。

本コンクールは生産技術や経営方式において他の模範となる先進的な農業者、集団組織等を表彰し、その成果を広く紹介することにより、我が国果樹農業の発展に資することを目的として平成 11 年度から実施しているもので、今回で 16 回目となります。

主催団体は、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、日本園芸農業協同組合連合会、全国果樹研究連合会及び公益財団法人中央果実協会の 5 団体です。

また、農林水産省と日本農業新聞社の後援をいただいております。

コンクールの審査は、5 団体で実行委員会を構成し、実行委員会の中に学識経験者等で構成される審査会を設けて被表彰者の選定を行っています。

今年度の受賞者は別表のとおりですが、表彰式の最後に受賞者を代表して農林水産大臣賞を受賞された福島県の斎藤栄慶氏・智美氏が「受賞者のことば」を述べられました。

なお、農林水産大臣賞受賞者の概要は下記のとおりですが、各賞受賞者につきましては、当協会のホームページに掲載しておりますので、第 15 回までの各賞受賞者の概要とあわせてご覧いただければ幸いです。

第16回果樹技術・経営コンクール受賞者一覧 （敬称略）

農林水産大臣賞

氏名・集団名	住 所	果 樹
斎藤（さいとう） 栄慶（しげよし） 斎藤（さいとう） 智美（ともみ）	福島県伊達市（だてし）	もも、西洋なし りんご
福岡八女農業協同組合なし部会（ふくおかやめのうぎょうきょうどうくみあいぶかい）	福岡県八女市（やめし）	日本なし
熊本宇城農業協同組合柑橘部会（くまもとうきのうぎょうきょうどうくみあいかんきつぶかい）	熊本県宇城市（うきし）	かんきつ
小野（おの） 次信（つぎのぶ） 小野（おの） 幸子（ゆきこ）	大分県宇佐市（うさし）	ぶどう

農林水産省生産局長賞

氏名・集団名	住 所	果 樹
野村（のむら） 孝尚（たかひさ） 野村（のむら） 文子（ふみこ）	茨城県下妻市（しもつまし）	日本なし
秋山（あきやま） 仙一（せんいち） 秋山（あきやま） 美枝（みえ）	山梨県南アルプス市（みなみ し）	おうとう、もも、すもも、かき

農林水産省生産局長賞(つづき)

氏名・集団名	住　所	果　樹
冨田　孝　　冨田　かおり	愛知県豊橋市	もも、かき
紀州農業協同組合みなべいなみ梅部会	和歌山県日高郡みなべ町	うめ
JA阿波町「ブドウ」部会	徳島県阿波市	ぶどう
青木　聡　　青木　裕香	愛媛県伊予郡砥部町	かんきつ

関係団体賞

全国農業協同組合中央会会長賞

氏名・集団名	住　所	果　樹
JA八戸果樹総合部会ゼネラル・レクラーク専門部	青森県三戸郡南部町	西洋なし
八代　良一　　八代　千鶴	静岡県賀茂郡東伊豆町	かんきつ

全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

氏名・集団名	住　所	果　樹
大阪中河内農業協同組合柏原ハウスぶどう出荷組合	大阪府柏原市	ぶどう
香川県農業協同組合三豊地区高瀬ぶどう部会	香川県三豊市	ぶどう

日本園芸農業協同組合連合会会長賞

氏名・集団名	住　所	果　樹
甲府市農業協同組合果実部ぶどう部会	山梨県甲府市	ぶどう
森　純幸　　森　まどか	長崎県長崎市	びわ、もも

全国果樹研究連合会会長賞

氏名・集団名	住　所	果　樹
長谷川　彰一　　長谷川　美保子	鳥取県米子市	日本なし、もも
石井 寿幸　　石井　節子	宮崎県東臼杵郡美郷町	くり

公益財団法人　中央果実協会理事長賞

氏名・集団名	住　所	果　樹
阿部　勝正　　阿部　サチ子	岩手県一関市	ぶどう
グリーン長野農業協同組合もも部会	長野県長野市	もも、ネクタリン

農林水産大臣賞受賞者概要

斎藤　栄慶・智美　氏

○　福島県伊達市

（もも、西洋なし、りんご）

もも 187a、西洋なし 103a、りんご 63a、合計 353 aの大規模果樹経営である。

経営面では、家族4人と常雇2人に、作業集中時の臨時雇用で対応しており、ももと西洋なしは農協出荷が主、りんごは直売が主である。

借地による規模拡大と園地集積で効率化を図るとともに、複数品目と品種構成を組み合わせ、長期間の出荷と年間を通じた労働配分を可能にしている。

技術面では、ももは側枝を大きく採光のある主幹型仕立て、西洋なしは風害耐性と作業性のあるY字棚仕立て、りんごは「足継ぎ」により肉質と食感のよい丸葉台木栽培に更新するとともに、完熟堆肥の投入

による土作りや複合性フェロモン剤の利用による減農薬に取り組んでいる。

JAもも部会長として、光センサー選果機導入や原発事故後の風評被害の払拭に尽力するとともに、農業後継者の指導や研修生受け入れなど県果樹農業振興の牽引役となっており、県農業賞を受賞している。

福岡八女農業協同組合なし部会
（代表者　角　正文）
○　福岡県八女市
（日本なし）

日本なしを 119ha 栽培する会員 109 戸のJA部会である。「幸水」「豊水」が主体で共同選果量は約3,200トン、販売額は10億円を超える。

非破壊内容品質センサーのデータ（糖度・熟度）や等階級発生率、反当たり収量等を基にした部会員毎の実績評価表を作成し、生産意欲の向上や生産指導に活用するとともに、部会員毎に基本樹を設定して、生育状況を全員で年2回一斉調査し基本管理の徹底、栽培技術の統一・平準化を図り、高品質化と安定的供給により市場の信頼を得ている。

部会全体で改植更新目標を設定し、園地の若返りを推進するほか、整枝研究会の活動によりジョイント整枝等の省力化技術の導入、園地貸借調査を基にした園地流動化による規模拡大の支援など後継者の確保を進めている。

ポジティブリスト制度への対応のため、他の園芸 5 品目毎の隣接園防除体系に基づいた薬剤散布を徹底するほか、梨・茶隣接園防除会議を定期的に開催している。また、全員がエコファーマー認証を取得するとともに、残留農薬検査、GAPにも取り組み安全・安心ななしづくりに努めている。

熊本宇城農業協同組合柑橘部会
（代表者　山内　良市）
○　熊本県宇城市
（かんきつ）

温州みかん 311ha、露地「不知火」247ha、施設「不知火」69ha、中晩柑 53ha、合計 680ha を栽培する部会員 497 戸の JA 部会である。共同出荷量は約 10,800トン、共同出荷額は約 30 億円である。

出荷では、個人・園地・品種毎に生産量の栽培台帳を毎年作成、全園地を対象に出荷直前に果実分析を行い、内容品質順での出荷量割当制で計画出荷をしている。

温州みかんでは、早くから品種の統一を行い、出荷時期や基準の統一化を図るとともに、栽培園地指定園を設置して高品質果実生産に努めている。

「不知火」では、12 月から 6 月まで加温・屋根掛け・露地・冷温貯蔵・P プラス（鮮度保持資材）・後期貯蔵と内容品質順での出荷量割当制により安定した品質と長期販売を実現し、温州みかんと併せ、市場や消費地からの高い信頼を得ている。

担い手対策として、大規模園地整備や補助事業を活用し、省力的な園地整備や優良品種への改植をすすめるとともに、地域全体の集荷・選果と細やかな品質区分が出来る高機能選果施設を整備し、出荷者毎の選果データ（品質・単価）をフィードバックして、品質向上意欲や農家指導に繋げている。

小野　次信　・幸子　氏
○　大分県宇佐市
（ぶどう）

ハウスぶどう 97a、雨よけぶどう 30aを主体に、銀杏 90a、カボス 20a、合計 237aの果樹専業経営である。

経営面では、ぶどうの加温栽培を中心にした家族労働主体の経営で、農協出荷と直売で2千万円を超える販売額を維持している。

10 種を超える品種構成と6月下旬出荷の早期加温から9月出荷の雨よけ栽培までの作型分散と省力的な平行整枝短梢せん定、SS、乗用草刈り機などの機械化で雇用に頼らない経営を実践している。

技術面では、「ピオーネ」の無核栽培や「シャインマスカット」を先駆けて導入し、早期の花穂形成や「ピオーネ」のジベレリン1回処理、ヒートポンプの導入による経費削減や平行整枝短梢栽培技術による効率化などの新技術を積極的に実証し、地域に還元するとともに、指導農業士として後継者を育成するなど地域の生産技術の向上に貢献している。

また、ぶどう部会の役員として、出荷規格の見直しなどと併せ、高単価が狙える東京・大阪への早期出荷を牽引し、部会員の所得向上に尽力している。

ニュージーランド・オーストラリア現地調査について

情報部　藤定 光太郎

ニュージーランド及びオーストラリアの最新の両国の状況把握のため3月 21 日から 27 日まで現地調査を行いました。

両国とも、ここ 20 年経済が順調に成長していることから物価は上昇しているものの、給料も上がっており、経済状況は非常に好調です。JETRO が日系企業を対象に調査しているデータから、2013 年の製造業のマネージャークラスの基本給をみると、アジアで高賃金であることが有名なシンガポールをいずれの国も大幅に上回りニュージーランドが月額 6,999 米ドル（83.2 万円）、オーストラリアでは 9,735 米ドル（115.8 万円）となっています。製造業の作業員クラスでもそれぞれ 3,351 米ドル、3,997 米ドルと非常に高く、旺盛な購買力が経済成長を下支えしているといえます。

また、勤務時間についてみると、両国とも朝が早く、定刻（16 時、17 時）で仕事を切り上げその後はスポーツで汗を流したり、家族とともに自宅で夕食を楽しむという生活スタイルとのこと。ちなみに、大手スーパーの営業時間は朝7時から夜 8 時までとなっていました。

食品の価格で見ると、町中の立ち食いバーガーでも 7～8 ドル（700～800 円）、店内に入ると 1 品が安くて 20 ドル（2 千円）程度となっており、両国とも感じとして日本の2倍の価格帯で経済が回っています（ちなみに、量も日本の 2 倍はありました。）。

果実の輸出可能性については、生鮮物は検疫条件が厳しく難しそうですが、「ゆず」などの柑橘を中心に「加工品」（シロップ漬け、ジュース、スムージー、果実酒、パウダー、チップス）は検疫の問題が無いので、日本料理ブームでもありレストランなどの業務用輸出の可能性は非常に大きいと思われます。

（ニュージーランド調査の概要）

経済状況や在外日本人の目から見た日本産果実の販売可能性について、JETRO オークランド事務所で林道郎所長から、また日本食品の最大取扱業者の TOKYO FOOD CO.,LTD の販売部門である Japan Mart を訪ね、店長・販売員から、売れ筋などについての情報を収集しました。このほか、ニュージランド品種保護当局を訪問し果樹の登録動向の情報を収集しました。

林所長によれば、経済は絶好調で、人口が少ないこと（457 万人）もあって人材は売り手市場とのことで、日本を始め各国でも人気職種の代表である JETRO の職員採用にも人を集めるのに苦労するそうです。在留邦人数は 1 万 3 千人で半分が永住者、残りの大半が留学生で企業駐在員は少数（日系企業数は 141 社）で、子女教育は日本人学校がないことから、現地校＋補修校で行っているとのこと。経済全体で見ると質の高い1次産品輸出に依存する小規模経済が特徴となっており、GDP ベースでは 7.4%でしかない第 1 次産業からの産品に付加価値をつけることがポイントとなっています。

日本食品を取り扱うのは 3 社（既掲、JFC、ﾒｰﾄﾞｲﾝ・ﾆｯﾎﾟﾝ）で、輸入割当制度もなく生鮮食品についても、検疫で輸入できないもの以外は全て輸入されているとのこと。

Japan Mart 社は 3 つの店舗をオークランドに展開しており、今年の 6 月には市内に1つ店舗を開設する予定。その後、首都であるウェリントン、クライストチャーチにも店舗を設ける予定とのこと。顧客の大半が現地人で、日本食を広げることが会社のテーマとのこと。

ちなみに、りんごを現地大手スーパーで購入したところ、Royal Gara が 2.99NZ ドル（約 300 円）/kg（以下同じ）、Braeburan Red が 3.99、Granny Smith が 4.29 でした。農民が直接販売するサンデーマーケットでは、価格は 1/2 程度でしたがキズ、ヨゴレが目立ちました。

（オーストラリア調査の概要）

JETRO シドニー事務所の川崎美奈子事業推進部長によると、経済は 2011 年をピークに中国の成長の鈍化とともに鈍る傾向にある。一方、20 年間継続して成長しており、ダイソーも価格設定を 2.8 豪ドルとしているなど物価も高いが、給与も最低賃金が 17 豪ドル/時となっており購買力は高い。在留邦人数は世界 3 位の 8 万人、シドニー、メルボルンに半々であるが、韓国人のほうがずっと多い。健康志向が高いことから、日本食品ブームであるが経営者は日本人以外がほとんど。ガリ、わさび、醤油、酢などもどこでも売っている。一方、青果は検疫で輸入できない。

代表的な果実の価格は、りんごは Fuji が 4.99 豪ドル/kg（以下同じ）、Pink Lady が 3.99、Granny Smith が 5.98、なしは Corella が 4.98、中国産が 3.99、柑橘については Oranges が 1.99、米国産の Navel が 4.98 であったとのこと。

平成26年度道県果実基金協会業務運営協議会開催される！！

去る2月9日（月）・10日（火）の2日間に亘り、石垣記念ホール及び共同通信会館を会場に、平成26年度道県果実基金協会業務運営協議会が開催された。

会議には、農林水産省園芸作物課、地方農政局、道県庁、道府県基金協会等の担当者、全国団体及び当協会職員総勢141名が参加し活発な議論が展開された。

9日は、農林水産省から、平成27年度果樹関係予算の概要及びその執行について、予算の概要、果実等生産出荷対策実施要綱・要領の見直し方針案及び加工専用果実流通体制確立支援事業の考え方案について説明があり、質疑応答が行われた。併せて当協会からは、平成27年度の果樹経営支援対策事業等の運営の見直し方向案を説明した。

後半は、平成27年度から新たに策定される「果樹農業振興基本方針」の、食料・農業・農村政策審議会果樹部会でのこれまでの検討状況が農林水産省から説明され、質疑応答が行われた。

10日は、道県基金協会からも要望があった公益法人立入検査の対応等について、公認会計士の袖山裕行氏を講師にお迎えして、講演をいただいた。

後半は、当協会の平成26年度業務の推進状況の説明及び平成27年度国産果実需要適応型取引手法実証事業等各事業の取組について道県基金協会に説明し協力を要請した。

また、道県基金協会等からの意見要望への回答、要望県からの個別協議を行い、無事2日間の会議を終了した。

今年は、会議が2日間開催となったことから、初日の会議終了後石垣記念ホールロビーを会場に62名の方々の参加を得て懇親会が開催され、アフターファイブも大いに盛り上がりました。

(有)ピーチ専科ヤマシタの経営発展の軌跡と経験
－第4回果樹農業研究会における講話より－

1. 第4回研究会

①日　時：平成27年1月9日（金）午後1時～4時
②出席者：駒村委員、徳田委員、長谷川委員、鈴木委員、農林水産省園芸作物課担当官、当協会関係役職員
③講話者：(有)ピーチ専科ヤマシタ
代表取締役　山下一公氏

2. 講話等の概要

山下氏には、①果樹経営の発展過程と現状、②流通・販売等の6次化への取組・創意工夫、③私募債の発行経験、中小企業家同友会を通じての経営者としての資質向上等、多岐にわたる講話をいただいた後、幅広い論点について活発な質疑応答が行われました。講演の要旨は次の通りです。

（1）(有) ピーチ専科ヤマシタの経営発展の軌跡

大学に残る予定であったが、昭和 57 年農学部卒業と同時に就農した。当時の経営面積（1.3ha）の半分を占めるブドウを桃に改植して桃専業経営となる。62 年には収穫期間の延長のため施設桃を組

み合わせた経営に(平成 20 年で終了)、平成元年からは自分で販売価格を決めることのできる桃の宅配に取り組み、顧客の増加に伴い経営規模の拡大に取り組む。現在は 12,000 人の顧客へ直売。平成 10 年には人材確保のために法人化し、山梨県中小企業家同友会に加盟し、経営・営業などを勉強するとともに異業種交流を実践した。年間労働の平準化のための花壇苗の生産・販売(平成 10 年～13 年)、あんぽ柿加工(平成 13 年～現在)や、出荷できない果物の商品化のためのジュース加工(平成 15 年～現在)に取り組むとともに、商品の差別化のためジェラートの製造施設を整備し(平成 26 年)、通年販売に取り組んでいる。平成 18 年には経営の外部評価・応援団作りのため1口 20 万円の私募債を発行し、完売した。生産面でも自らの経営面積 6.3ha に加え、量の確保による量販店への安定販売のための生産グループ「くだもの畑」を設立(平成 21 年)。顧客とのより顔の見える関係作りのため平成 19 年から「桃の木オーナー制」に取り組み、現在は momo.club という会員制に変更。また、農村都市交流施設カフェ「ラ・ペスカ」開設(平成 22 年)により、19 名の従業員(役員2名を含む正社員6名、パート1名、季節アルバイト 10 名)で就農時の 600 万円の販売額が平成 26 年には 9,500 万円まで増加している。

(2)今後の課題と経営改善

産地を担う後継者をどう育てるかが重要。基盤整備がその基礎になるが、遊休農地解消事業などは使いにくいため、果樹経営支援対策整備事業を使っている。日本一の果物作りを目指しており、法人経営の足腰を強くしていくことが課題で、マニュアル作りや作業の標準化に取り組むとともに、労務契約を作ったり社会保険へ加入するなど社員とパートの労働環境の整備に努力している。

「アグリフードEXPO」大阪 2015 への出展

当協会では、果実加工需要対応産地育成事業(新需要開発型)を通じて国産果実を使った加工品の試作開発を支援してきております。同事業の一環として、本年度の事業実施団体を中心に、これまで支援した団体を含め合計8団体が、当協会との共同出展者という形でアグリフード EXPO へ出展し、国産果実加工品の一層の普及・拡大を図るとともに実需者ニーズを把握しました。

各出展団体は、本事業により開発した果実加工品に加えて自社開発商品も出展し、バイヤーとの商談や情報交換等を積極的に行いました。今回の EXPO の概要は下記のとおりです。

＜「アグリフード EXPO」大阪 2015 の概要＞

- ○ 日　時: 平成 27 年 2 月 19～20 日
- ○ 会　場: アジア太平洋トレードセンターATC ホール(大阪市住之江区南港北)
- ○ 出展者: 農業者、食品産業、関連企業等 520 社
- ○ 来場者: 小売業(食品)、商社、卸売業・流通業、外食業、中食業、食品加工・製造業、農業団体、行政機関等
- ○来場者総数:14,956 人

（公財）中央果実協会

編集・発行所

公益財団法人　中央果実協会

〒107-0052
東京都港区赤坂 1-9-13
三会堂ビル 2F

電 話：03-3586-1381
FAX：03-5570-1852

編集・発行人

岩元　明久

印刷・製本

（株）丸井工文社

当協会 Web サイト
URL:
www.kudamono200.or.jp

参加団体・出展品一覧

	実施者	出展品
1	国立大学法人弘前大学	リンゴ（フリーズドライ、ジャム、カット、ジュース、ドリンクゼリー、ドレッシング）
2	静岡県農林技術研究所 果樹研究センター	李梅酒、レインボーレッド「ジャム」、ブルーベリー酢、干し柿
3	三重県工業研究所	ブドウ・梨のドライフルーツ、ブドウ・梨のドライフルーツを用いた菓子類、各種果樹類を用いたジャム
4	岐阜県農業技術センター	ミックス（カキ・パッションフルーツ）ジャム、パッションフルーツジャム、カキジャム、イチゴジャム、レモンジャム
5	三重大学	マーマレード、ジュース、味噌
6	（有）柚冬庵	柚子フリーズドライ加工品
7	宮崎県食品開発センター （宮崎県総合農業試験場）	キンカン（ドライ、シロップ漬け、ピューレ、ジャム）、ドライフルーツ（ブルーベリー、マンゴー）、パパイヤ茶、日向夏、フレーバーティー
8	福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター	・和菓子風干し柿‘和甘柿（わかんし） ・ソフトドライフルーツ　無花果（いちじく） 蜜柑（みかん）　福岡県産「果のしずく」を使用

お知らせ

第 16 回全国果樹技術・経営コンクール表彰式が去る 2 月 20 日に五反田「ゆうぽうと」で開催されました。受賞された皆様におかれましてはおめでとうございます。

平成 27 年度も引き続き当コンクールを実施することとしておりますので、推薦・応募につきましてよろしくお願いします。

毎日くだもの 200 グラム運動メールマガジン「くだもの＆健康ニュース」を発刊しています。

多くの方の読者登録をお待ちしております。

メルマガの読者登録方法は当協会下記ホームページをご覧下さい。

http://www.kudamono200.or.jp/JFF/

業務日誌

27.1.30	平成26年度全国果実生産出荷安定協議会第5回かんきつ部会（於 大田市場）
27.2. 9～10	平成26年度道県果実基金協会業務運営協議会（於 三会堂ビル石垣ホールほか）
27.2.19～20	第８回「アグリフードEXPO大阪2015」への参加(於 大阪市アジア太平洋トレードセンター)
27.2.20	第16回全国果樹技術・経営コンクール表彰式（於 五反田ゆうぽと）
27.3.13	平成26年度第3回理事会（於 三会堂ビル）

人事異動

農林水産省生産局農産部園芸作物課

新	日　付	名　前	旧
課長補佐（総括及び総務班担当）	27.1.23	宮本　亮	課長補佐（需給調整第２班）
農業環境対策課鳥獣災害対策室長	27.1.23	秋葉　一彦	課長補佐（総括及び総務班担当）

道県果実基金協会

区分	新役職	日　付	名　前	旧役職
退任		27.1.16	関岡　光昭	愛媛県協会事務局長
就任	愛媛県協会事務局長	27.1.16	渡部　和光	
退任		27.2. 1	大西　幸治	宮崎県果実協会事務局長
就任	宮崎県果実協会事務局長	27.2. 1	脇田　聖一	

注）今回中央果実協会の人事異動はありません。